

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 6	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Regular alcohol consumption improves insulin resistance in healthy Japanese men independent of obesity.	
健全な日本人男性において肥満とは非依存的に適量飲酒がインシュリン抵抗性を改善する	
執筆者	
Fueki Y, Miida T, Wardaningsih E, Ito M, Nakamura A, Takahashi A, Hanyu O, Tsuda A, Saito H, Hama H, Okada M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Clin Chim Acta. 2007 Jul;382(1-2):71-6.	
キーワード	
飲酒、インシュリン抵抗性、肥満、日本人	
要 旨	
<p>飲酒とインシュリン抵抗性の関係については議論が多い。また、肥満の存在がこの相関を混乱させている。筆者らは適量飲酒がインシュリン抵抗性を健全な日本人男性で改善するか、また肥満がこの関係に影響を与えるかどうかについて健康診断を受けた 1029 名 (24~87 歳) で調べた。被検者を肥満でないグループ (BMI<25 kg/m²) と肥満のグループ (BMI≥25 kg/m²)、さらに非常習飲酒者、適量飲酒者 (MD; 1 週間で 1~6 日)、毎日飲酒する者 (DD; 1 週間で 7 日) にわけ、HOMA 法で評価したインシュリン抵抗性 (HOMA-IR) と心リスクを比較した。肥満でないグループと肥満のグループの両方で飲酒が用量依存的に HOMA-IR が減少していたが、どのカテゴリーにおいても肥満でないグループに対して肥満では HOMA-IR が 2 倍高かった。BMI、収縮期血圧、喫煙、LDL・コレステロール、HDL・コレステロール、肝障害で補正後、段階的ロジスティック回帰分析によって、飲酒が HOMA-IR の独立した負の因子であることが明らかになった (OR, 0.576 (95% C.I. 0.402-0.824), <i>p</i><0.003)。</p>	